

ときを越え
受け継がれるもの

薬師堂

Ⅱ 胆沢区南都田字化粧坂 Ⅱ

止々井沼の大蛇を、人身御供となった佐用姫さようひめが読経で調伏する、松浦佐用姫と高山掃部かみ長者の物語 佐用姫はこの地を去るとき、身に付けていた薬師如来像を堂に安置した。

その後堂は荒廃してしまうが、慶安の頃（1650年前後）、病床にあった別当三世正明院しょうめいゐんがお告げを受け、土中から仏像を掘り出して再興。これが今の薬師堂とされている。

仏像を清め拜むと一夜にして病気が治ったといわれ、病気に苦しむ住民の信仰を深めていった薬師堂。明治以降は天台宗平泉中尊寺の末寺となったが、佐用姫が母の盲目を治したという伝説から、特に眼病に靈驗あらたかな薬師清水の堂として、昭和の頃まで広く信仰を集めた。衆生の病苦を救うとされる薬師如来のありがたさを強く表す佐用姫の伝説。静かににたらずむ薬師堂は、今もなお人々に癒しを与え続ける。

※文献により小夜姫、佐夜姫、小夜媛とも



1 杉林の中に建つ薬師堂の拝殿。奥の本殿に収められている本尊は33年に一度の御開帳で次は2027年のこと 2 3 市指定文化財の「化粧坂の算額」と「化粧坂の追分石」。どちらも江刺郡の住民が奉納・建立したもので、広く信仰を集めていたことが窺える（算額は個人所蔵）



広告